

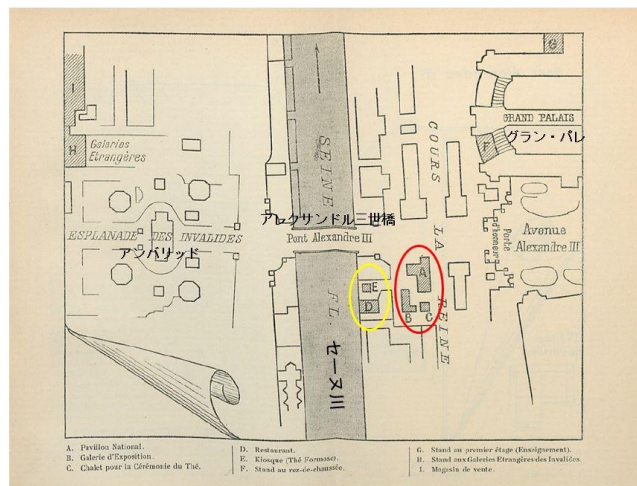
213 1925 年アール・デコ博覧会（2023 年 11 月 21 日）

以前に[パリ万博と日本](#)のお話をしたときに、1925 年にパリで開催された現代産業装飾芸術国際博覧会、通称アール・デコ博覧会の日本パビリオンを写したポストカードをご紹介しました。別の機会に取り上げた[地球映像資料館](#)（銀行家のアルベール・カーンが 1912 年に立ち上げた写真と映像の壮大なアーカイブ）の中で、この博覧会の日本パビリオンの写真を見つけました。さらに、フランス国立図書館の電子図書館ガリカでは、日本の万博事務局が編集した日本部門のカタログを閲覧することができます。今回は、この重要な博覧会を印象付けた日本パビリオンの様子を見ていきます。

1923 年に、フランス政府が日本政府に対して、アール・デコ博覧会への参加を申し入れました。この時の駐日フランス大使は、[ポール・クローデル](#)でした。この時の日本は、大変困難な状況にありました。第一次大戦後に対外貿易が不振に陥っており、日本製品の輸出拡大のために、1921 年に日本産業協会が設立されました。1923 年に関東大震災が発生して、東京を始めとした広い範囲で甚大な被害が出ており、町の再建という大きな課題を抱えていました。このような状況でしたが、日本政府は、この博覧会への参加は日本の美術工芸品の輸出促進の契機になると考えて、博覧会への参加を表明しました。

博覧会に参加した 22 か国のうち、独立したパビリオンを建設したのは 18 か国でした。日本は、震災復興に予算を割くため、独立したパビリオンを持たずに自国製品の出品に留めたい考えでした。しかし、参加を辞退したアメリカに割り当てられていた場所で、アレクサンドル三世橋に近いセーヌ川沿いにあるラ・レーヌ通りの一等地にパビリオンを建設することになりました。日本は、アジアの国として、独立したパビリオンを建設した唯一の参加国となりました。

カタログに掲載されている図面（右の画像）によると、日本パビリオンは、住宅（A）、展示室（B）と茶室（C）の 3 棟で構成されています。河岸には、食事処（D）と売店（E）がありました。全体像を見ると、パビリオンは木造の純和風建築でした（写真左下）。資材は全て日本から船で運ばれ、日本から来た大工によって建設されました。[縁側](#)があり、こ



© Bibliothèque nationale de France, Gallica（一部加工）

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

の時代の典型的な日本家屋です（写真中央下）。また、展示室には、名工たちによる数多くの工芸品が並びました。当時のカタログによると、陶器、漆器、絹織物、七宝、金工品、寄木細工、かご製品、螺鈿（らでん）、宝飾品といった幅広いジャンルの作品が展示と販売されたことが記録されています。左下の写真では、金工品や屏風が展示されている様子が分かります（写真右下）。



© Musée départemental Albert-Kahn, Département des Hauts-de-Seine
Paris (Ville arr.), France, L'Exposition des arts décoratifs, Pavillon du Japon, sur le Cours-la-Reine, A45 712 S



© Musée départemental Albert-Kahn, Département des Hauts-de-Seine
Paris (Ville arr.), France, L'Exposition des arts décoratifs, Pavillon du Japon, sur le Cours-la-Reine, A470645



© Musée départemental Albert-Kahn, Département des Hauts-de-Seine
Paris (Ville arr.), France, L'Exposition des arts décoratifs, intérieur de maison japonaise, œuvres d'arts diverses, A403295

カタログの中で興味深いと感じた記述がありました。まず、日本家屋には大きな家具がないのは、日本人は、動かすのが難しい大きな家具によって埃が溜まるのを嫌がることと、シンプルさを好むからであると説明しています。また、室内に入るときは靴を脱ぎ、室内では部屋履きを履くことはなく、庭に出るときには「下駄」を履くと書かれています。室内には椅子がなく、座布団の上に座る（写真右）ことも記載されています。現代の日本の住宅には、多くの場合には食器棚や本棚などの家具があります。日本人は、今でも室内で靴を履くことはありませんが、室内履きを履くことはあります。一方で、下駄を履くことは少なくなりました。また、座卓がある住宅でも椅子とテーブルもあるのが一般的で、座卓と座布団しかない住宅は少なくなりました。当時のパビリオンから、この100年間の日本家屋や日本人の生活様式の変化を知ることができます。



© Musée départemental Albert-Kahn, Département des Hauts-de-Seine
Paris (Ville arr.), France, L'Exposition des arts décoratifs, intérieur de maison japonaise, A46326